

## I. 甲状腺・副甲状腺

- 117 慢性甲状腺炎における  $^{201}\text{Tl}$ -Chloride  
シンチグラフィーの有用性について  
旭川厚生病院 内科  
○坂本 治 折居 裕 小倉建夫  
佐野博昭  
旭川厚生病院 外科  
宮森祥八郎

$^{201}\text{Tl}$ -Chloride は現在心筋スキャン製剤、或いは腫瘍スキャン製剤として広く利用されているが、甲状腺シンチグラフィーにも応用され、その有用性に関する報告も多い。我々は慢性甲状腺炎患者に  $^{201}\text{Tl}$ -Chloride シンチグラフィーを施行し、その有用性について検討を加えたので報告する。対象：昭和52年1月から昭和53年4月まで当院甲状腺外来を訪れた慢性甲状腺炎患者50例で、男性4人、女性46人、年齢は10～65才の範囲である。尚診断は橋本氏病研究班の診断基準に従い、37例は組織診断を行った。方法： $^{201}\text{Tl}$ -Chloride 2mCi を静注し、20～30分後 Nuclea Chicago Pho-Gamma HP scinti camera でピンホールコリメーターを使用し、 $10 \times 10^\circ$  カウントで撮影した。エネルギーピーク 80 keV ウィンドー幅 20% である。上記症例の大部分は1週間のヨード制限後

$^{131}\text{I}$ -甲状腺シンチグラフィーを行い比較検討した。結果：慢性甲状腺炎の  $^{201}\text{Tl}$ -Chloride 甲状腺シンチグラム所見を下記の4群に分類した。I群：バックグラウンドが強く画像が不明なもの、II群：甲状腺への集積はみられるがバックグラウンドが強く画像が不鮮明なもの、III群：辺縁が不鮮明でやゝ画像の悪いもの、IV群：画像が鮮明なもの、である。これらの群に属する例はI群5例、II群5例、III群14例、IV群18例でありIII、IV群に属し甲状腺の形態を把握するために有用であった例は約76%であった。 $^{131}\text{I}$ による甲状腺シンチグラムは慢性甲状腺炎においてヒマン性腫大として良好に描出される例は少くいわゆるマダラ像 変形、欠損として描出されるもの、或いはほとんど画像の得られないものが72%を占めており、全体の形態を把握する目的には  $^{201}\text{Tl}$ -Chloride が優れているように思われた。又、 $^{131}\text{I}$ -甲状腺シンチグラムにおいて上記の画像がほとんど得られない、マダラ像 欠損、変形像などの所見を示したにもかかわらず、 $^{201}\text{Tl}$ -Chloride シンチグラムで良好な甲状腺シンチグラムを得られた例が両者のシンチグラフィーを行った56%にみられた。結論： $^{201}\text{Tl}$ -Chloride による甲状腺シンチグラフィーは慢性甲状腺炎において良い画像の得られる例が多く、 $^{131}\text{I}$ -シンチグラフィーと併用する事により慢性甲状腺炎の病態をより詳しく把握できると考えた。

- 118 慢性甲状腺炎の  $^{201}\text{Tl}$  甲状腺シンチグラフィー  
札幌大 放  
○大久保整、高橋貞一郎、久保田昌宏、湯川元賢、牟田信義

病理組織診断の確定した慢性甲状腺炎7例の  $^{201}\text{Tl}$  甲状腺シンチグラフィーを検討した。 $^{201}\text{Tl}$  2mCi 静注、10分後に甲状腺シンチグラフィーを行った。7例の  $^{131}\text{I}$  又は  $^{123}\text{I}$  による甲状腺シンチグラフィーでは全例 cold 又は warm area が認められた。 $^{201}\text{Tl}$  による甲状腺シンチグラフィーでは、これらの cold 又は warm area に全例正常部と同程度の  $^{201}\text{Tl}$  の集積を認めた。7例中サイログロブリン抗体は2例陰性で、マイクロゾーム抗体は1例陰性であった。このうち1例は両者とも陰性であった。 $^{201}\text{Tl}$  甲状腺シンチグラフィーは、慢性甲状腺炎の診断に有用な方法となるであろうと考えられた。